

留 学 報 告 書

令和 8 年 9 月 8 日

法文学部 法経 学科

氏 名 時山 怜花

※ 留学先大学での成績証明書を添付すること。（島根大学に直接送付される場合はよい）

1. 留学先国・大学・学部 国名 ドイツ

大学 Trier（トリア） 学部 法学部

現地到着日（ 令和7年9月17日） 授業開始日（ 令和7年10月13日）

現地出発日（ 令和8年7月24日） 授業終了日（ 令和7年7月17日）

2. 日本を出発するまでの主な手続き及び準備

①留学手続きの申請（オンライン）（寮・授業料など）

②ドイツ保険加入

③閉鎖口座の開設準備

④航空券の購入

3. 自宅から留学先大学までの交通手段（乗物の種類，乗り換え地，所要時間）

自宅から成田空港まで深夜バスで移動、成田空港から飛行機でフランクフルト国際空港に到着しました。直行便で、所要時間は約14時間。直行便だと25万円くらいするので、乗継便で行くことをお勧めします。フランクフルトからトリアまではDeutschBahnという列車で、乗り換え1回、3時間半ほどで到着します。チケットは駅でもオンラインでも購入可能です。Trier駅からTrier大学まではバスを使用します。片道で2.5€（Deutschlandticketがあれば無料）、所要時間は20分から30分です。

4. 留学先大学での各種手続きの仕方

①ビザの申請

②市民登録の申請（大学の人が案内してくれるので心配なし）

③銀行口座の開設（任意）（同じく大学の人が案内してくれます。）

5. 留学生へのオリエンテーションの内容及びプレースメントテストについて

10月の初めにドイツ語能力テストを受ける。（A2.1の問題文はすべてドイツ語。分からない問題文の単語は先生に聞けば教えてくれる。聞き得。注意してほしいのは、ドイツの筆記試験は絶対にボールペンで行うこと。（シャーペンで試験を受けた留学生が不合格になっていた）日本のような選択式はあまりなく、ほとんどが記述式。文法の基礎は復習した方がいい。）

6. 授業の受け方、ペーパー及び試験の傾向等について

生徒約20人、先生1人で教科書を元に授業が進んでいく。1学期目のA2.2の授業はペアワークが多く、簡単なプレゼンテーション・発表をした。評価の仕方は日本とあまり変わらず、中間試験・最終試験（WritingとSpeaking）・平常点がある。試験はライティング能力が重視される。特に、単語をただ覚えるだけではなく、文章で単語・状況を説明する能力が求められていると感じた。

7. 留学先大学で学んだ科目のうち特に良かったもの、後輩に勧めたいもの

Sprechkompetenzという会話の授業。話すことに重きを置いていて、重要な会話表現などを学ぶことが出来た。

8. 留学先大学の住居の種類等について、後輩にどのような寮・アパートを勧めるか

寮は大学が手配をする（寮の申請書で、何か要望がある場合は備考欄に書くと希望に応じてくれるらしいby友達）寮は大きく分けて2つある。Campus1から徒歩で20分のPetrissberg、Campusから徒歩3分のTarfostがある。Petrissbergは近くにスーパーがあり、買い物には困らない。部屋の仕様として、1人部屋と2人部屋があり、1人部屋だと1か月405€、2人部屋だと310€ほど。Petrissbergは1人部屋、綺麗で広かったの
でお勧め。

9. 寮・アパート生活での注意、生活の様子（行事など）、困ったこと、ルームメイトとの付き合い方、（いつから入れるのか、寮の開閉、寮が閉鎖中の滞在場所等）

入寮日は大学から指定される。退寮日も大学側から指定があり、その日までに退寮する日を自分で決められる。角部屋だったこともあり、友達を呼んで夜遅くまで話していても特に苦情が来ることはなく、防音性が高くとても快適だった。ゴミも自由に捨てることが出来る。

10. 留学先での金銭の扱い及び貴重品の管理について

（どのような口座を利用したか、現金とかカードの利用は、自宅からの送金はどうしたか等）

私は閉鎖口座を利用したため、日常生活ではExpatrioという口座を利用した。バイトの振り込みはSparkasseを使用し、二つの口座を利用していた。現金が必要な場面はあまりなかったが、その場合はSparkasseから引き出していた。（ATMが多くあり手数料無料のため）

11. キャンパス案内（どんなとき、どこへ行けばよいか等）

Campus1は私達留学生や学部生が使用するキャンパス、Campus2は主に修士生が使用するキャンパスなので、Campus1で大体授業が行われる。Campus1には図書館・食堂・Cafeもある。

13. 失敗談（どんな小さなことでも）

ドイツから日本へ荷物を送る際、追跡番号を忘れてしまい、荷物の追跡ができず荷物が届かなかった。

14. 病気になった場合の対応について（医療費はどのようになっていたか、保険等はどのようにしたか）

日本から持ってきた薬を飲んで、寝て治した。

15. お世話になった方々

島根大学国際課の方々、Schulz先生、山崎先生、Trier大学の国際課、先生方

ドイツの大学で仲良くなった留学生、友達。

16. 留学先国内旅行について（場所，手段，費用，旅行社等）

Frankfurt（フランクフルト）、Köln(ケルン)、Düsseldorf(デュッセルドルフ)、Berlin(ベルリン)、München(ミュンヘン)、Halle(ハレ)、Stuttgart（シュツットガルト）、Nurungerg（ニュルンベルク）など
交通費はDeutschlandticketで無料。

17. 気候と服装について

冬は想像以上に寒くなく、日本での服装で十分だった。冬は曇りが多く、気分が晴れないことも多いかもしれない。2026年の夏は本当に暑く、部屋にはクーラーがないため、夜寝られないこともあった。Handy fanを持っていくことをお勧めする。

19. 留学に際し最も役立った本は（専門書，旅行案内書を含めて）

独和・和独の辞書

20. ホームステイの依頼方法

ホームステイの制度はないと思います。

21. 留学費用について

1) 旅費	(往) 25万円 (復) 10万円
2) 準備費用	20万円
3) 大学へ納入する費用	10万円
授業料（年間合計）	0円
保険等その他の費用	毎月3万円
4) 住居費（光熱費等含む）	毎月8万円

5) 衣服代, その他雑費	10万円
6) 帰国時の土産代, 郵送料等	50万円
7) 留学先国内旅行費用	30万円
8) 上記を含めその他すべてを含めた合計金額	260万円
現地通貨 <u>€</u> 日本円換算(レート) <u>186円</u>	

22. 帰国時の荷物の作り方, 送り方等

スーツケースに入りきらない分は、DHLの国際郵便で荷物を送った。大学内に郵便局があるため、そこで手続きができる。

23. 留学して得たこと (全般についての感想文)

1年間のドイツ留学を通して、まずは何事にも挑戦してみるというチャレンジ精神の重要性を学んだ。
トライ&エラーの精神で沢山の留学生・地域の方々と交流することで、ドイツ人の友達ができたり、日本では触れることのできない価値観・文化・人々の出会いを経験したりすることができた。この長期留学を決断していなければ得られなかった出会いや経験を通して、挑戦する勇気は、自らの新たな可能性を見出すことを実感した。
1年間のドイツ留学は、私の今までの人生の中で、濃く一生忘れられない大切な思い出になった。ドイツに限らず、留学に興味がある方は是非チャレンジすることをおススメする。